

SDG s を用いた行動経済学での社会課題解決

風間遼太郎・小椋雄太郎・今井茉那

【研究背景】

大学として、多摩大学環境宣言をしている中で、多摩大学の一員である私たちが、自分達の研究分野を用いて、SDG s の観点から、環境問題解決にどのようにかかわる事が出来るかを考えた。

【研究目的】

環境問題解決

【提案】

株式会社成城石井への SDG s に関する営業
具体的提案内容

- 1.量り売りドレッシングの販売（既存商品を活用）
- 2,ドレッシング用ガラス容器の販売

1.使い捨てのドレッシングではなく詰め替えの容器を持参してもらうことによってプラスチック使用量を削減。また、話題性も○

2,成城石井のロゴをつけることによってロイヤリティの確立。また、来店要因にもなると考えた。なぜドレッシングか…詰め替えへの移行のハードルが低い。また、成城石井ブランドの「なんでもいけるドレッシング」のロイヤルカスタマーの囲い込み販売容器について

ガラス製容器の採用…プラスチックを使用しないことで環境への配慮。また、匂いがつきにくく保存に向いていること、色も移らないことが採用の理由

【問題提起】

限りある資源を過剰に浪費している



引用：国際連合広報センター 「SDGs のポスター・ロゴ・アイコンおよびガイドライン」

https://www.unic.or.jp/files/sdg_poster_ja_2021.jpg (閲覧日：2022年1月19日)

特に SDGs の中の 12 と 14 に注目 12…つくる責任、つかう責任

14…海の豊かさを守ろう資源の浪費への歯止めを 12 番の目標を掲げることで解決
島国日本にとって海の問題は全員が当事者意識を持って取り組まなければならない

容器の販売方法案

1,サブスク方式

1,牛乳瓶のように瓶を交換式で常に新しいものを→高コスト・感染症リスク↓

【懸念点】

詰め替え文化のない日本人にどうアピールをするか